

平成30年度

鹿児島市教育研究会

# 「小・中連携研修会」

～長田中グループ～



平成30年6月18日(月)  
会場：鹿児島市立名山小学校

## 1 長田中グループ研究主題

児童・生徒が豊かな人間性をもち、共に学び、共に育つための小・中連携はいかにあるべきか。

## 2 研究主題設定の理由

子どもたちの心の問題、生徒指導上の諸問題は、道徳教育や人権教育あるいは基礎学力の指導の充実により、相当程度解決が図られるものと考えられる。これら学習、生徒指導の具体的な手立てについては、小中双方の教育の独自性と発達段階について情報交換し、理解を深めていくことが大切だと考え、本主題を設定した。

## 3 研究の視点

- (1) 実態把握と情報交換のあり方
- (2) 確かな学力を身につける学習指導のあり方
- (3) 子どもへの生徒指導（情報交換、情報共有）のあり方
- (4) 特別な支援を必要とする児童・生徒への指導のあり方

## 4 当日の日程

- (1) 日時 平成30年6月18日(月) 14:00～16:40
- (2) 内容 授業参観 普通学級12学級 特別支援学級2学級 日本語教室3教室  
分科会 生徒指導テーマ「心に届く生徒指導のあり方」  
学習指導テーマ「確かな学力と学習のしつけを身につける学習指導のあり方」  
特別支援テーマ「一人ひとりの支援をより確かにする指導のあり方」  
全体会 分科会からの報告 質疑・意見交換 講評

## 5 各分科会からの報告

- (1) 生徒指導部会「携帯電話などのネットに関する指導」

### 課題

- ・ 携帯(スマホ等)の所持率が年々高くなってきた。→生活リズムの乱れが心配
- ・ 不審者がいた。(ビデオやカメラで撮られる等)
- ・ SNS等への投稿があった。(個人が特定される写真や動画)

### 改善策

- ・ ネットスリープ宣言を行った。
- ・ PTAとしての連携(ケータイ・ネットスリープタイム宣言の実施)を図った。
- ・ トリプルスリーププロジェクトの啓発(心の休養、体の休養、携帯の休養)をする。
- ・ 事例に基づく指導強化を図る。

### 共通実践

情報の共有と情報の発信(実態把握→情報共有→PTAでの連携)を図る。

### 指導助言

- ・ 子どもにとって何色なのかを意識する。
- ・ 想いをめぐらす。そのためのキーワードは、「自尊感情」「自己肯定感」である。

- (2) 学習指導部会「確かな学力を身につける学習指導のあり方」

### 質疑応答

- ・ 家庭学習時間の設定と勉強時間の確保についての情報交換
- ・ クラスルームイングリッシュの取り組み → お互いに情報交換
- ・ 業間の活用について → 話し合い、作文指導、新聞活用など

- ・ 少人数指導について（定着度別，等質） → 各学校・児童の実態で変わる。
- ・ 外国語活動への取り組み方 → 「書く」の扱い，フォニックスの活用
- ・ 道徳の取り組み方 → 重点目標の設定，評価，ノートの活用

#### 共通実践

今後も学習のしつけについて取り組んでいく。  
各学校，研修テーマに沿って取り組み情報を交換し合う。

#### 指導助言

- ・ 学力向上は，教師の指導向上が一番（県から資質向上4点が出ているので確認）である。
- ・ 道徳に関しては，評価への意識が大切である。
- ・ 外国語に関しては，小・中でクラスルームイングリッシュを共通実践できるとよい。
- ・ 全国学力・学習状況調査で正答率に高い学校は，調べたり文章を書いたりする宿題を出している学校，教職員が，校内外の研修会で学んだものを還元できる学校である。

### (3) 特別支援教育部会「1人ひとりの支援をより確かにする指導のあり方」

#### 質疑応答

Q 1 中学卒業後の進学ならびにそれに向けた取り組みはどのようにされているか。

Q 2 小学校から中学校への移行期の支援はどのようにされているか。

A n s 各単元での実態把握をし，類似問題等をさせている。

Q 3 児童についての相互理解のはかり方はどうしているか。

A n s 1 学期 どのような支援が必要かを全体で共通理解する。（赴任されてきた先生方にも）

2 学期 臨機応変に会を開く。（支援学級の先生方だけの会や全体会）

3 学期 次年度に向けて今後の支援の在り方を話し合う。

#### 共通実践

移行期の支援の充実を図る。

- ・ 子どもたちの学力，実態把握に努める。
- ・ その子にふさわしい支援の在り方を組み直す。
- ・ 中学校から小学校へ参観する機会を作る。

#### 指導助言

- ・ ぜひ中学校の先生方の小学校参観を実現させてほしい。
- ・ その子に合わせて，スモールステップのきざみ具合を調整して支援・指導の充実を図る。
- ・ 環境作りを大切にす。 (視覚情報に対する過敏さへの配慮)

## 6 全体会

### (1) 生徒指導

- ・ スマホ等に関する実態アンケートをとり，共有したい。
- ・ 下校時間が学校によって違うので，確認していきたい。

### (2) 学習指導

- ・ クラスルームイングリッシュについて，共通実践できることがないか考えていきたい。

### (3) 特別支援教育

- ・ 今後も交流を通して，その子にふさわしい支援を行っていきたい。

## 7 講評

- ・ クラスルームイングリッシュで小・中共通なものが作れないか検討する。
- ・ スマホやネットは禁止するのは難しい。どのように付き合っていくかが課題。ネットトラブル等，県教委から出ているDVD等も活用する。
- ・ 特別支援教育は，担当の先生だけでは支援できないので，全職員の共通理解と共通実践をする。
- ・ 最も大切なことは，情報の交換をすること。いろいろな場で積極的な情報交換をする。